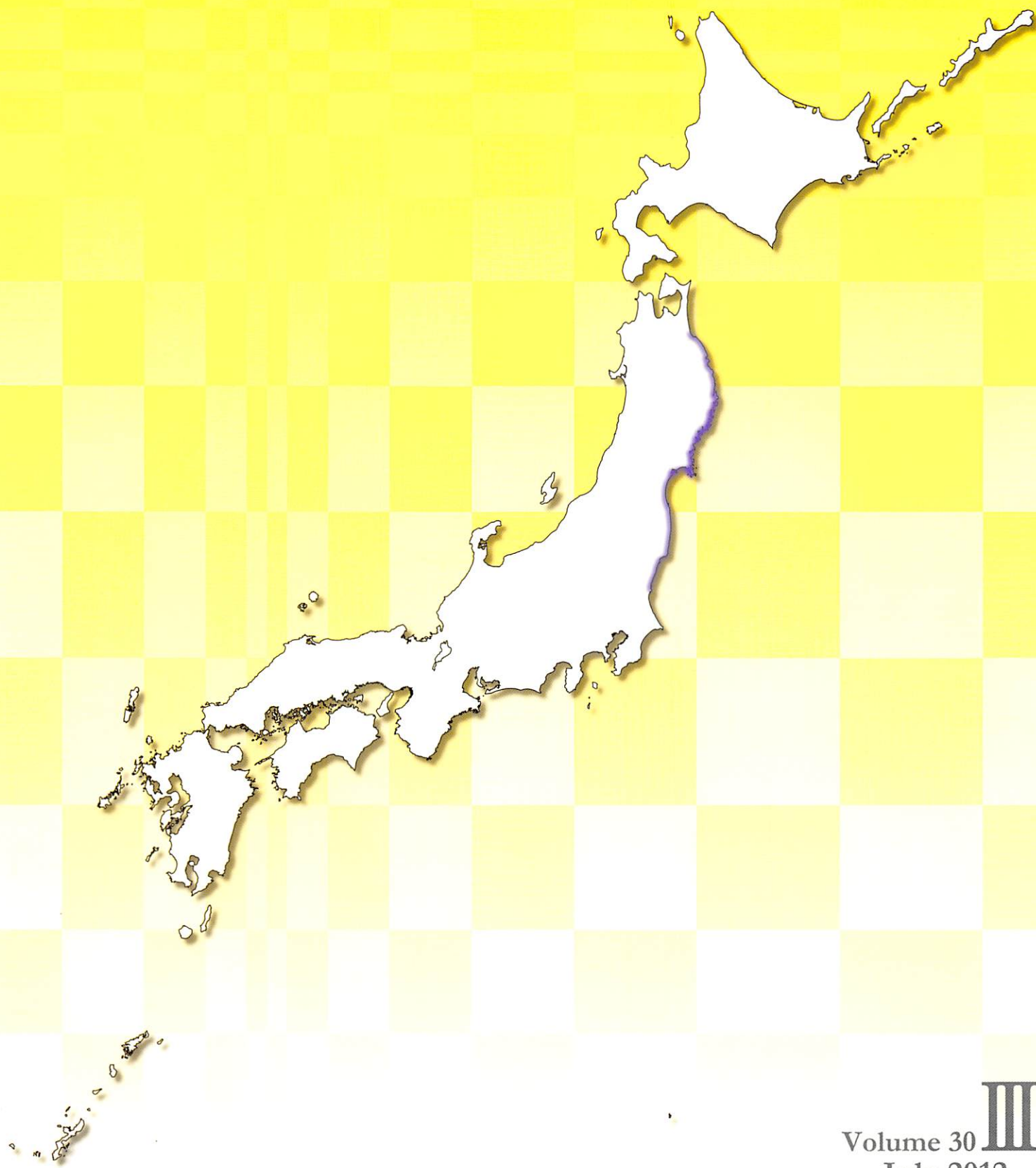


# ITC JAPAN REGION



Volume 30 **III**  
July 2012

## 目 次

### Table of Contents

今期のテーマ	1	2011-2012 Theme
年次大会基調演説 (日・英)	2・3	KEYNOTE ADDRESS
役員からのメッセージ	4~7	Messages from Officers
スピーチコンテスト No.3 No.4	8・9	Speech Contest Report from Council No.3・No.4
CMT・TPP 報告	10	TPP・CMT Report
次期役員・指名委員	11	Japn Region Next Term Officers
会則決議報告	11	Report on the Bylaws
書記・年次報告	12	Annual Report
30周年記念講演 安藤忠雄氏	13	The 30 <sup>th</sup> Anniversary Lecture
教育セッション報告	14~17	Training Sessions
30周年記念式典・エンターテイメント	18・19	The 30 <sup>th</sup> Anniversary Ceremony・Entertainment
スピーチコンテスト (英語)	20	Speech Contest (English)
スピーチコンテスト (日本語)	21	Speech Contest (Japanese)
ライティングコンテスト	22・23	Writhing Contest
インスピレーション・クロージングソート	24・25	Inspirasion・Closing Thought
大会ご苦労様 アンケート結果	26・27	The 30 <sup>th</sup> Annual Conference Report
東日本大震災 その後③	28	Voice from TOHOKU
ホームページへのアクセス	29	How to access to ITC Home Page
次回年次大会案内	30	Invitation to next Conference
訂正	31	Amendments
編集後記	31	Message from Editor
ITC 宣誓&声明文		ITC Pledge & Mission Statement of Japan Region

ITC 日本リージョン第30期テーマ  
2011—2012

Japan Region Theme

力を信じて  
*“Believe in Yourself”*

ITC Theme 2011—2013

*Be the Change*

あなた自らが変化の主体に



2012年6月24日～26日 第30回日本リージョン年次大会 名古屋東急ホテル

## 年次大会基調演説

第30期日本リージョン会長 葛谷 美紀子 AC

ここ名古屋は、1949（昭和24）年7月に日本で初めてITCのクラブが創設された所です。それから更に33年後の1982（昭和57）年に日本リージョンが発足し、翌1983年、第1回リージョン大会もここ名古屋の地で開かれました。組織の名称は創立時のInternational Toastmistress ClubsからInternational Training in Communicationとなりました。私たち会員はそれぞれの期に与えられた役割に、どの部門でも誠実さを持って取り組み、新しいことへの挑戦を繰り返し、それが引き継がれて伝統となってまいりました。

今期は、日本人としては、震災復興の年、ITC会員としては、組織の見直しの1年でした。そこで、テーマを「誇りと自信を持って進んでいこう」の思いから、「力を信じて」「Believe in yourself」と致しました。

組織をしっかりと形で維持するためには「会員を増やすこと」が求められますので、第30期の活動として、短期目標の「1」にクラブ増設と増員を掲げました。今期の新入会員数は、現在までのところ70名です。今期芽生えた増設に関しては、「時間の力」を信じて来期に繋げてまいります。

短期目標の「2」としては、日本リージョンウェブサイトの刷新を掲げ、ウェブサイトは3月1日にリニューアルされました。その結果、掲載可能な容量が増え、「マスターマニュアル」、「10周年沿革史」、「20周年沿革史」なども掲載しています。

国際からのニュースであるFrom the Boardroom, Coach for Success, Aloha Newsなどは、日本語訳を付けて、日本リージョン会員全員に読んでもらうように、メールでの配信とリージョンウェブサイトにも掲載いたしました。

また、28、29、30期と続けてカウンスルNo.5 堺東クラブから翻訳の要望が寄せられたITC財務諸表2011を訳し、全会員に配信致しました。今後の日本リージョンの進むべき方向を探るため



にも、財務の実状を会員が共有することが必要と考え翻訳しました。未来の為の前向きな検討課題として、来期に繋がるように願っています。

短期目標の「3」は、日本リージョン30周年沿革史の発行です。今期の終わりの7月末に、現クラブ会長あてに在籍会員分を送定の予定です。出来るだけ正確な記録を掲載したい、という委員会の気持ちの入った沿革史をお読みいただき、是非、日本リージョンの歩みを感じてください。歴史から進むべき未来が見えてきます。

長期目標は、リージョン、カウンスル、クラブの再編成を掲げました。組織の未来を見据えて、「私たちの組織をどのような形にしていくのが最善か」を考えてみました。任期中、8カウンスル全てを訪問し、それぞれのカウンスルが個性と能力を発揮して活動している姿を拝見できたことは、ITC会員の「ことばの力」を信じた瞬間でした。しかし、ITCが今後取り組むべき課題の一つは「若い人からも注目される組織になること」です。コミュニケーション力を問われる今の時代だからこそ、若い世代を育てるために、ITCが社会で担う役目は大いにある、と思います。ITCを引き続き、PRしてまいりましょう。

日本リージョンの設立30周年を記念する今期の大会テーマは「手をつなごう」 "Hand in Hand" です。この大会で、他人と人との手の温もりを感じていただきますようにと願い、基調挨拶とさせていただきます。

## KEYNOTE ADDRESS

**Mikiko Kuzuya, AC**  
The 30<sup>th</sup> Japan Region President

Nagoya is the place where the first ITC club has started in Japan in July, 1949.

33 years later, in 1982, Japan Region was established and in the next year, the first Japan Region Conference was held here in Nagoya in 1983. The name of our organization has started as International Toastmistress Clubs and it has changed to International Training in Communication. We, the members, have pursued our given roles sincerely and continually challenged our new goals. This practice has been handed down to the next generation and has become our tradition.

This term has been a year of recovery from the Great Earthquake for us Japanese and a year of reexamination of our organization for members of ITC. I thought, "We should go forward with pride and confidence." I decided the theme for this term to be "Believe in yourself."

For the organization to maintain firm foundation, membership increase is a must. For our short term goal, I set the first priority to club extension and membership increase. The number of new members is 70 as of today. The bud of extension has started this term. I am determined to hand this bud to the next term believing in "the power of time".

I chose renewal of Japan Region Website as our second short term goal and it has been renewed on March 1. As a result, we are able to carry more articles on the website. Our website now carries "Master Manual", "10 years' history" and "20 years' history" and etc.

From the Boardroom, Coach for Success, Aloha News etc. are sent to all the members of Japan Region via e-mail and are carried on the Region Website with Japanese translation so as to be read by all the members.

There have been requests from Sakaihigashi Club

to translated ITC financial statement in the 28<sup>th</sup>, 29<sup>th</sup> and 30<sup>th</sup> term and ITC financial statement 2011 has been translated this term. It has been distributed to all the members. I decided to translate it because I thought it is necessary for us Japanese members to share the actual state of finance in thinking about Japan Region's future course. I hope it will be handed down to the next term as a positive agenda for our future.

The short term goal No.3 is publishing "30 years' history of Japan Region". At the end of this term in July, I am planning to send them to all the club presidents to distribute to all the members. Committee members made every effort to publish the history as accurate as possible. Please read them and feel Japan Region's every footstep we have pursued. Our history will tell you our future course we should take.

For a long term goal, I chose reorganization of Region, Councils and Clubs. By looking at the future of our organization squarely, I have given serious thought to the best possible organizational structure. I have visited all the 8 councils during my term and observed activities of every council with their individuality and ability. These were the moments when I realized and believed in "the power of words". One of the challenges we should tackle is to "make our organization attractive to younger generation". The power of communication is prerequisite in our age. ITC has an important role to play in our society in order to nurture younger generation.

The theme of this Conference, celebrating the 30 anniversary of Japan Region, is "Hand in Hand". I would like to conclude my keynote address by wishing for all the members to feel the warmth of other members' hands.

# 役員からのメッセージ

## 「出前講座」の報告

第一副会長（プログラム・教育委員長） 西阪 宣枝

「各レベルのプログラムと教育の向上を援助する」ことが会則修正により加えられてから、プログラム・教育委員会の重要な任務の一つと認識し、昨年実施されたリージョンで人選した教育担当リーダーを、要請されたクラブに派遣すると言う「出前講座」の実施を今期も引き続き企画実施することといたしました。希望クラブの中から、様々な状況を検討した結果、今期は4つのクラブにリーダーを派遣することができました。

### 1 盛岡クラブ

「スピーチの作成」 65分のワークショップ（2012年1月12日）

リーダー：岩佐 圭子（東京） 参加者：会員12名 ゲスト3名 合計15名

準備された資料、「スピーチの作成」の基本形 1：イントロダクション〔導入〕、2：テーマ〔テーマ・センテンス〕、3：本文、4：結論 の4セクションの説明から始まり、この4セクションの時間配分を考えながら、各自「スピーチ」を作成し、タイトルをつけて、全員が実際にスピーチを発表した。「タイトル」はスピーチの一部です。タイトルをつける時にもスピーチの内容を考えるのと同じように真剣に取り組んでください。あなたが言いたい事〔テーマ〕を言葉に置き換えて聴衆に最も印象に残るような方法で再度伝えて終わることが大切です。とリーダーは締めくくられました。

寒い雪の日、仕事後の夕方18時30分からの例会にもかかわらず、疲れも見せず、熱心に教育に参加されていました。「緊張感があり、実りある例会でした」と例会後会員の感想をお聞きしました。

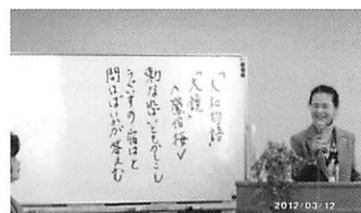
### 2 飛騨高山クラブ

「古典から学ぶユーモア」 90分のワークショップ（2012年3月12日）

リーダー：上原紀美子（平安） 参加者：会員25名 ゲスト3名 合計30名

ワークショップは、準備された「ユーモアの教育資料を基に語源・由来から始まって、「ユーモア」の分類、その分類に当てはまる「ユーモア」を「大鏡」・「今昔物語」・「徒然草」などの日本古典文学の逸話から抽出して、具体的な説明によって読み取り、理解していくものでした。「ユーモア」とは単なる「お笑い」を指すのではないこと、言葉の教養を前提に相手の立場を思いやり、深い洞察や世知の豊かさが上品でセンスあるユーモアを生み出すことなどを、出典資料の内容に即しながら教育された。リーダーは「飛騨高山クラブの皆様が大変熱心に耳を傾けて下さっているのがよくわかり、阿吽の呼吸のように、私自身にも思わず力が入って行くのを感じました。コミュニケーションとは相互の意思の伝達であると、紋切り型の理解がよくなされていますが、伝える側・聞く側の熱意や捉え方の目線が何よりも楽しくシンクロナイジングしているときに、成立するものなのだとこのことを改めてしっかり実感できたことが大きな喜びでした」と話され、会員と有意義な時間の共有ができたことを感謝されていました。

参加された皆様は、引き続いて「ユーモア」についての教育を企画したいと意気込んでおられました。



### 3 眉山クラブ

「コミュニケーション力のアップ」 50分のワークショップ（2012年3月29日）

リーダー：六車紀代子（岡山） 参加者：会員27名 ゲスト18名 合計45名

リーダーが昨年から No.4 で実施されている教育<非言語コミュニケーションゲーム>（絵によるコミュニケーション）を実施された。グループに分かれて、一人ずつテーブル担当トレーナー席に来て、カードに書かれた文字を見て、グループ席に帰って、絵を描いて仲間に伝えます。この時、言葉を使わず、ジェスチャーも使わず、数字や特定のマークなども使えません。また、一度使った絵を別の問題の時にも使えないと言う約束の下、ひたすら絵で、いろいろ工夫して描いて伝えていきます。

絵の上手下手は関係なく、言葉を伝えようとしている送り手に対し、受け手のメンバーがいかに多くの言語で発言し、送り手に返すことができるかが、競う原点になります。グループで正解が出たとき、初めて送り手は声を発することが許され、次の方が繰り返して行うゲームをしながらのコミュニケーションです。ゲームは時間が許される範囲で終え、そのあと、各自、更にグループ間で振り返りをし、自分自身や周りの会員の普段見ることのできない素晴らしい所が見えた？とか、それとも嫌な部分が見えた？とか等 ITC 会員としてちょっと違った角度からコミュニケーションの経験ができたワークショップでした。ともかく楽しく、参加者は皆、生き生きと目を輝かして参加されていて、心に残るワークショップでした。

### 4 千里クラブ

「議事法を学ぶ」 65分のワークショップ（2012年5月18日）

リーダー：沖田 道子（ひろしま） 参加者：会員20名 ゲスト21名 合計41名

オープン例会として広く呼びかけ、20名の一般ゲストを迎えた。リーダーは新しいメンバーにも中堅にも楽しく学べる「議事法ワークショップ」の周到な資料を準備し、模擬例会を行い、スキット（沖田リーダー作）としてメンバー7人が役になりきり演じられていました。



定足数に始まり、いろいろな審議のやり方など、それぞれについて疑問を投げかけ答えを丁寧に教育され、質疑応答も活発に行われました。次に修正、総意、会則、定足数、会則、棚上げ、事前通告、委員会への付託、などの意味を読み上げて、どれに当たるかと言う（沖田リーダー作）「議事法ビンゴ」を行い、皆が頭を捻り、楽しみ、和気あいあいと和やかな中に活気あるワークショップとなりました。最後に3人のメンバーから「私と議事法」と題して議事法に対する思いを5分間のスピーチで披露され、思いが同じであることにホットした方もあったようです。

お忙しい中、それぞれの希望に沿った講座と周到な資料をご準備を下さいましたリーダーの皆様、遠隔地もありましたが快くお出かけ下さいましてありがとうございました。

出前講座をご希望下さいましたクラブの皆様、準備を整えてお迎え下さり、ゲストと共に、熱心にワークショップにご参加下さいましてありがとうございました。

それぞれ4つの「出前講座」は、どの講座もいつまでも心に残る、活気のある充実したワークショップとなり、有意義な例会となりました。

ご協力下さいました皆様に心より感謝申し上げます、そして厚く厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

## 「PREM活動は楽しい」

PREM 委員長 稲葉 由利子

今期のリージョンPREM委員会の課題は、ITCの抱える問題を共有し、会員とリージョンとの隔たりを失くすこと、PREMを身近なものと認識し協力して頂くことでした。興味深く楽しく、そして役に立つ「PREM情報」を提供することにいたしました。

第1号は、ITCの歴史と魅力を紹介した「ITC賛歌」、10年前の問題提起を第20期リージョン会報から取り上げた「タイムリミット」から始めました。第2号では、「スピーチコンテスト優勝者」から広報の方法を、「会員数30名クラブ」からは多人数を保持する秘密をメッセージしてもらいました。第3号は、「この人にスポットライト」と題し、国内外から魅力的な会員を紹介しました。今期初のクラブ、カウンスル主催の2つの「スピーチコンテスト」の報告もいたしました。第4号は「インタビュー」「紙上フォーラム」と形式を変え、会員紹介と増設についての記事を掲載しました。多岐にわたる情報を楽しんでいただけたと思います。

【新入会員紹介】は、新入会員名、クラブ名、紹介者名を記載し、できるだけ多くの皆様に関心を持っていただくようにしました。紹介者の努力はもちろんの事、新入会員から見たITCの魅力は今後のPREM活動に大いに役立つものと思います。

どのレベルにおいても、PREM委員会の目的は明確ですが、手段に決まりはありません。自由な発想と意欲次第です。会員から関心の強い委員会でもありますから、やりがいもあります。皆様の来期の活躍を期待しています。

1年間、PREM委員の協力を得て、楽しく学ばせて頂きました。

下記は今期最後の【PREM情報】です。リージョン大会の記事が、6月27日（水）中日新聞朝刊に掲載されました。

名古屋	<b>「震災遺児支援、末永く」</b> 桃・柿育英会 安藤忠雄さん講演
講演後、葛谷美紀子大会会長から寄付金を受け取る安藤忠雄さん（名古屋市中区で）	
東日本大震災で親を亡くした子供の学費を支援する「桃・柿育英会」実行委員長で建築家の安藤忠雄さん（左）の講演会が二十六日、名古屋市中区のホテルであり「既に被災三県に二回分配したが、七割ぐらゐが女性の寄付。今後十年で三十六億円を集めようと活動している」と、子供たちが成長するまで末永く見守ろうと訴えた。	創造力、勇気、闘争心を子供たちに取り戻さなくてはいけない」と話した。 政府の東日本大震災復興構想会議で犠牲者慰霊のため提唱した「鎮魂の森」建設が十力所で進んでいることを紹介。「あの地震を忘れないためのメニューメント。一人ひとりはいったい何ができないか、日本全体で支えていけば、この国は必ず復活していく」と結んだ。 相互理解のための話術や指導力を培う国際的なクラブ組織「ITC日本リージョン」が招いた。日本組織発祥の地である名古屋での年次大会は九年ぶり。講演後、参加者七百二十人から寄せられた寄付金五十六万円余が、大会会長の葛谷美紀子さん（右）に名古屋千種区から安藤さんに手渡された。



## 第30期を振り返って

書記 若林 裕子

書記の任務の一つは役員会と大会の議事録を作成することです。議事録作成に対して、書記に求められるのは「議会用語の知識、要領の良さ、正確さ、優れたタイピング能力、迅速さ」とマニュアルにあります。私は簡潔であっても、時間をかけて色々と討議され導かれた結果が正確に伝えられる議事録を書き上げたいと思って、6時間あまりの役員会に出席して参りました。簡潔であるということは、如何に記載するかというより、如何に省略するか判断によるところが大きく、そのためには議事法や会則を熟知していることが不可欠と痛感いたしました。ボードメンバーの協力を得て何とか乗り切ってきました。一年間次々に生じる難問に対処しての勉強でした。

でも書記のもう一つの任務、「リージョン役員であること」は、役員会の中でリージョンが直面する問題だけでなく、国際、カウンスル、またクラブからの問題を皆で意見を出し合って、一つの結論に導いて行くという楽しい時間でした。カウンスルを超えたボードメンバーの皆様と一緒に歩めた一年は、素晴らしい経験となりました。



## リージョン会計を務めて

会計 伊藤 容子

リージョン会計は、81クラブの会計から直接、新入会員入会時の「送金送り状」、名簿変更時等の「多目的フォーム」を受け取り、関係部署に引き継ぎます。今期は約110通余りの報告を受け付けました。この他、寄付遺贈及び年度末には次年度のリージョン年会費も「送り状」と共に受け付けました。これらはほぼメールですが、こうした事務的な送受信のやり取りでも一言二言のメール本文にクラブ会計の皆様と温かいつながりも感じられ、楽しみの一つでした。リージョン大会でお名前に記憶のある方に「〇〇クラブの会計です、お世話になりました」とお声をかけて頂きましたことも嬉しいことでした。皆様のご協力に感謝申し上げます。

会計も役員の一員ですが、私ははじめて役員をさせて頂き、これまで29年間の先輩たちの素晴らしいご尽力で日本リージョンが創られてきたことに改めて敬意と感謝の気持ちでいっぱいとなりました。ITC組織としてクラブが基本ですが、カウンスル、リージョン、そして国際と・・それぞれのステージには、また素晴らしい出会いがある。それがITCの魅力でもあったと感じた一年でした。この機会を頂きました事に心から感謝申し上げます。

# カウンスル No.3 主催「高校生スピーチコンテスト」実施報告

後援：ITC日本リージョン・兵庫県私学連合会

カウンスル No.3 会長 中島 由美子

これからの ITC は「社会に向けて発信し、継続する」必要があると考えていましたので、期首より PREM 活動として、ITC が長年培ってきた「スピーチコンテスト」のノウハウを生かせる「高校生スピーチコンテスト」の開催を決めました。実施日を検討した結果、2012年3月24日(土)と定めて、PREM 委員長を実行委員長に委員会が一丸となって準備を始めました。

当初より、兵庫県私学連合会会長が長年の友人でしたので後援を依頼し、私学会館使用にも多大の便宜を図って頂きました。会長の計らいで、兵庫県下全ての私学の理事長・校長出席の総会で ITC についての説明と「高校生スピーチコンテスト」の実施要項について説明させて頂き、少しは ITC についての理解をして頂いたようでした。複数校の先生方から、スピーチコンテストに関する最近の傾向等多くのアドバイスを頂戴し、学校を通して参加者を募ったことで保護者の信用も得られました。

準備段階から所属クラブ会員の皆様の底力とチーム力を目にする事が多々ありました。受付、会場係、スピーカー担当、マイク担当、エスコート、タイマー、テラー、写真、計時係、ページとカウンスル No.3 総動員の様相を呈し、審査員、審査員代理、評価者の何人かは他クラブの方々や ALT の先生方と、誰もが気持よくお役を引き受けてくださる様子を見るにつけ、感謝の気持ちが日々大きくなってまいりました。このようなお役が必要と何の迷いもなく、岩元 PREM 委員長は計画し、PREM 委員は参加者や、会場の儀典に関しても細やかな配慮を次々と打ち出して実行に移していく様子は頼もしい限りでした。

今回参加した生徒、先生、保護者が ITC の存在とスムーズなコンテストの進行、行き届いたケアの数々を素晴らしいと称賛して下さった意義は大きいと感じています。評価書も学校側と本人に送ること、「ITC は素晴らしい！ こんなにも暖かい心遣いをして下さる会があったなんて」との御礼の電話やメールを頂きました。外部での認知作戦は一先ず成功、早や来期の参加申し込みもあり、2013年3月23日には私学会館での第2回「高校生スピーチコンテスト」開催予定も立っています。

日本中のカウンスルやクラブで生徒対象のスピーチコンテストを開催し、継続できれば、最終的に ITC 日本リージョン主催「生徒によるスピーチコンテスト」の実施に繋がります。そうすれば社会への発信ができ、国際教育機関としての ITC 日本リージョンの認知度は上がるはずで。

3月24日の感動が覚めやらぬ翌週の29日、カウンスル No.3 第2回会合での、日本語の部・英語の部、優勝者による一生懸命のデモンストレーションスピーチは参加者の心に暖かい優しさや新鮮な風を運んでくれました。称賛と感動の拍手は暫く鳴りやまず、No.3 全ての会員にとっては充実した会合であり、感謝一杯の会合になりました。このデモンストレーションは来期も実施予定です。

後援をして下さった ITC 日本リージョン、兵庫県私学連合会に深謝申し上げます。



コンテストを終え、記念撮影に応じる武智南帆さん(手前左から2人目)と松本佳恋さん(同3人目)＝県私学会館

が選ばれた。

語部門で若原学園の谷澤優希さん(17)＝西宮市

武智南帆さん(16)＝六甲市、英語部門で若原学園の松本佳恋さん(17)＝西宮市

が選ばれた。

武智南帆さん(16)＝六甲市、英語部門で若原学園の松本佳恋さん(17)＝西宮市

が選ばれた。

武智南帆さん(16)＝六甲市、英語部門で若原学園の松本佳恋さん(17)＝西宮市

が選ばれた。

武智南帆さん(16)＝六甲市、英語部門で若原学園の松本佳恋さん(17)＝西宮市

が選ばれた。

武智南帆さん(16)＝六甲市、英語部門で若原学園の松本佳恋さん(17)＝西宮市

が選ばれた。

武智南帆さん(16)＝六甲市、英語部門で若原学園の松本佳恋さん(17)＝西宮市

が選ばれた。

武智南帆さん(16)＝六甲市、英語部門で若原学園の松本佳恋さん(17)＝西宮市

が選ばれた。

武智南帆さん(16)＝六甲市、英語部門で若原学園の松本佳恋さん(17)＝西宮市

が選ばれた。

武智南帆さん(16)＝六甲市、英語部門で若原学園の松本佳恋さん(17)＝西宮市

が選ばれた。

武智南帆さん(16)＝六甲市、英語部門で若原学園の松本佳恋さん(17)＝西宮市

が選ばれた。

武智南帆さん(16)＝六甲市、英語部門で若原学園の松本佳恋さん(17)＝西宮市

が選ばれた。

武智南帆さん(16)＝六甲市、英語部門で若原学園の松本佳恋さん(17)＝西宮市

が選ばれた。

武智南帆さん(16)＝六甲市、英語部門で若原学園の松本佳恋さん(17)＝西宮市

が選ばれた。

高校生がスピーチコンテスト

日本語、英語で熱弁

神戸

## 第1回東広島市内小・中学生スピーチコンテスト

カウンスルNo.4 ひがし広島クラブ会長 三浦 雅美

クラブの今年度のモットーである「心をひとつに」を合言葉に、新しいことに挑戦してみました。

ITCの目的の一つである「上手な話し方、聴き方を通じての伝達技術の訓練」を採り上げ、自らを磨くとともに、地域へのPREMを兼ねて、子供達に自分の思いや夢を伝えることのできる場を提供することにしました。

今、子供達を取り巻く環境が悪化しつつあります。子供達がこのことに自ら気づき、改善するための意見を持ち、声を上げる力を身につけて欲しいと願っています。そこで、自分の思いを明確に言葉にし、人前で発表する喜びを知る場として「第1回東広島市内小・中学生スピーチコンテスト」を開催しました。

まず、尾道クラブが開催している「尾道市内小・中学生スピーチコンテスト」を見学し、色々なことを学びました。また、私達のクラブがある東広島市は

「人づくり」をめざしており、特に新しい時代を担う子供達の育成のために、学校教育に力を入れていることを知りました。そこで、東広島市教育委員会・(財)東広島市教育文化振興事業団に出向き、本企画の趣旨を説明し協力を求めたところ、幸いにも後援して頂くことになりました。

教育委員会を通して市内の小・中学校に募集要項を配布して頂きました。初めはITCの知名度が低く、反応がほとんどありませんでした。そこで、個人的な繋がりを頼って学校を訪問し校長先生と面談して参加を呼びかけました。まずITCとはから始まり、活動状況、本企画の趣旨などを説明することで賛同が得られるようになりました。

応募者数は小学生53名、私立中学生3名があ

り、発表内容を書類審査し、小学生10名、中学生3名を選びました。コンテストの審査はITCスピーチコンテストの規定に準じました。東広島市長、教育長、リージョン会長、国際スピーチコンテスト委員長、他クラブ会員などの参加を得、発表者の先生、友達、父兄や市民などの多くの方が視聴しました。

いずれの発表者も内容、事前準備、発表態度など立派で、甲乙つけ難い激戦でした。小学校の部の優勝者は、医師となり日本とフィリピンの架け橋となって、母の故郷の病人の心に寄り添いたいと将来の夢を力強く話し、中学生の部の優勝者は、今年の合唱コンクールを通じ考えが変わり、充実した学校生活を「私の成長」と題して発表しました。また、審査の間にアトラクションとして可愛い小学生の合唱を聴きました。

この様子は、NHKや地域のテレビ局で放映、中国新聞や地域の新聞で報道されました。

後日、参加した学校の先生方から素晴らしかった、次回も参加したいとの言葉も頂き、大きな反響がありました。今回の反省に公立中学校の参加、より多くの生徒の参加があります。開催日や公募の仕方を工夫するなどしてより素晴らしいものにし、スピーチコンテストが長く継続できるようにしたいと思います。

少人数での初めての開催であり、一人何役もこなしつつ「心をひとつに」をモットーに挑戦し大きな反響があったことは、今後の私達の活動に大いに励みとなりました。また、先生方や生徒達にITCに関心を持って頂けたように感じられ、将来メンバーになってくれるのではと期待しています。

このスピーチコンテストが継続できるように頑張りますので、ご支援をお願い致します。



# CMT・TPP 報告

次期会長 小菅 あけみ

第30回日本リージョン年次大会一日目には下記の2つの研修会が行われました。

## 1. カウンシル運営研修会 Council Management Training

現役員、委員長をリーダーとして昼食をはさみ、10部門で行われました。

(会長・第1副会長・第2副会長・書記・会計・議会法規役員・編集者・資格認証・会則決議・スピーチコンテスト) その他の委員会は資料を送って各カウンセル担当と連絡を取り、リージョンからの研修指導をしていただきます。

リージョンのホームページにCMT資料の項目で、研修時の配布資料が載っています。カウンセル、クラブでの研修にお役立てください。CMTは1回ですが、来期始まってから質問などあれば担当役員/委員長にその都度聞いて、各レベルで上手に運営して下さい。

## 2. Training Power Pack: There is no "I" in TEAM. チーム作り

公式訪問者クリスティン エンドウ ITC 副会長によるワークショップが、通訳付きで行われました。スクリーンに現れたたくさんの品物を決められた時間内に、いくつ覚えられるか、グループ活動があり、記憶力抜群のチームにはご褒美・・・歓声! チームから離れて行くメンバーがいるとしたら、その理由は? また、リーダーとボスの違いは? など、チーム作りの極意を学びました。

また、渡り鳥のガンが、V字型で飛ぶ理由は・・・? リーダーとチームが目的地に達する為に一緒に働くことをガンを通して学びました。

この教材(日英)と配布資料は、来期、リージョンのホームページから入手できるようにしますので、クラブの研修に是非お役立て下さい。日本人向けのワークショップに直して行うこともできます。その場合は原作者クリスの名前をいれて下さい。

注: 英語タイトル直訳「TEAM(チーム)の中にはI(私)という文字は入っていません」

## 3. TPPに引き続き、クリスエンドウ ITC 副会長とマーガレットサザーランド前 ITC 会長を囲んでの質疑応答のひとつを持ちました。

① 日本人会員がとりやすい資格認証を考えてほしい → ITCへ提言できる

② 若い会員を増やすには → (例)ニュージーランドのクラブの例

若いメンバー8人。朝仕事に行く前に会合 7:00-8:15

役員会なし。スピーチだけの回の次は、ビジネスの回がある。

今までのクラブの概念と違った取り組みをすることで、ITCの生き残りの可能性を模索しましょう!



## TPPを終えて

柴田 ひさ (サンデー)

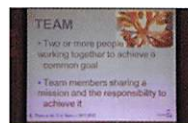


30周年を迎える発祥の地、名古屋での久々のリージョン大会はかねてより楽しみでした。2年余り住んだ名古屋でITCに出会ったことも私にとっては懐かしい思い出です。

3月20日、葛谷会長からTPPの通訳をとの問い合わせがあり、即座にお引き受けしました。4月27日に小菅次期会長からTPPを行う公式訪問者の原稿が届き、次第に大会が実感を帯びて来ま

した。40枚のパワーポイント画面を和訳して配布資料の準備をし、20枚近くの台本の和訳を通して、内容がよいよ身近になりました。国際からの公式訪問者は5月にはアイスランドの大会に出席中でしたので、内容に関する質問は彼女のアメリカ帰国後にメールで遣り取りしました。本番前日の初対面で打ち合わせをし、当日は8つのテーブルに60名余の参加者でした。

昨年の世界大会での評価で希望の多かった「チームワーク」が今回のテーマでした。兎角、日本人にはチームワークは得意分野で、内容も既にわかっていると見做しがちです。しかし実際はどうでしょう。参加形式で問題に取り組んでみると別の面が見えてきます。私自身、何時も課題、宿題を通して新しい発見を体験しています。今回は発表者の準備の仕方や臨機応変の対応振りが勉強になりました。評価用紙は大半が日本語の記入でしたから、英訳を添えて発表者、クリス・エンドウさんにお渡ししました。評価を頂く事で、通訳として準備はしていても、もっと適語があった等、まだまだ足りない所が沢山見えて来ました。楽しく学ぶ機会と巡り会え、発表者の温かい人柄にも触れられた貴重な体験に感謝です。



## 31 期 テーマ

### 「失敗から学ぶ」 “Develop Success from Failures”

#### 次期役員

会 長	小 菅 あけみ	(No.8 サンデー)
次 期 会 長	今 井 京 子	(No.2 イースト神戸)
第 一 副 会 長	杉 谷 和 代	(No.2 イースト神戸)
第 二 副 会 長	松 本 敬	(No.5 豊 中)
書 記	鎮 守 康 栄	(No.5 梅 田)
会 計	藤 井 豊 子	(No.7 倉 吉)

#### 指名委員

委 員 長	藤 原 い と	(No.6 平 安)
委 員	佐 伯 圭 子	(No.1 葵 )
委 員	関 稔 子	(No.8 東 京)

## 日本リージョン会則修正 報告

会則・決議委員長 加藤 正枝

2012年6月25日 名古屋東急ホテルで行われた第30回日本リージョン年次大会に提出された会則修正案1件の審議結果は下記の通りです。

太字の部分が修正された箇所です。

修正案 「原案通り可決された」

修正箇所： 会則9.2.12. 翻訳

修正方法： 挿入

会則 9.2.12. 翻訳：翻訳委員会は ITC 会則・常規修正案、ITC 教育資料、ITC 会計報告書、国際との通信物等の翻訳をする。

以 上

# 第30期 ITC日本リージョン役員会年次報告

2011年8月1日～2012年7月31日

第30期日本リージョン役員会は、日本リージョン声明文、会則・常規及び役員会方針に基づき、葛谷美紀子会長のテーマ「力を信じて」のもと、以下の活動を行った。

長期目標「リージョン、カウンスル、クラブの再編成」

短期目標「クラブ増設と増員」

「日本リージョンウェブサイトの刷新」

「日本リージョン30周年沿革史発刊」

## 1. クラブ数・会員数の状況

日本リージョンは今期8カウンスル、81クラブ、会員1,294名で始まった。

6月20日現在 クラブ数81クラブ、会員1,330名（内重複会員は41名）である。

## 2. 研修会報告

- ① カウンスル運営研修会（CMT）は2012年6月24日 名古屋東急ホテルに於いて、103名が出席して10部門で行った。
- ② Training Power Pack（TPP）は6月24日、公式訪問者 Christine Endo ITC ディビジョン I 副会長により行われた。
- ③ 年次大会の評価は6月26日年次大会終了後、公式訪問者により、30期日本リージョン役員、議会議法規役員と大会準備委員長を対象に行われた。
- ④ 評価後、公式訪問者により、日本リージョン新役員を対象に Region Management Training（RMT）が行われた。

## 3. 主たる活動

- ① 役員会は定足数を以て議会議法規役員出席のもと現在までに8回開催した。  
また必要に応じてEメールでの通信連絡役員会を適宜行った。
- ② 役員は8カウンスルの第一回会合に公式訪問を行い、リージョンの方針を伝えた。
- ③ リージョン会報は3回発行を予定しており、現在までに第1号、第2号を発行し、全会員に配信した。第3号は7月に配信予定である。
- ④ 今期、リージョンメールを2ヶ月に1回配信とした。リージョンメールは1添付にまとめた。
- ⑤ ITC日本リージョンのホームページを刷新した。使用料は安くなり、容量も大きくなった。
- ⑥ FtB、Coach for Success 等国际からの配信されるメッセージは、いち早く全会員に知らせる為、翻訳委員会によって日本語訳をつけて、クラブCLOに配信し、リージョンウェブサイトにも掲載した。以前から要望のあったITC財務諸表は、外部の複数の会計士に翻訳を依頼し、ウェブサイトに掲載した。
- ⑦ 会長は国際役員会にリージョン会長報告書を3回提出した。
- ⑧ 12月に今期の長期目標「リージョン、カウンスル、クラブの再編成」を受けて、カウンスル会長とリージョン役員、PREM委員で検討会を開催した。
- ⑨ 「日本リージョン30周年沿革史」は7月末に配布予定である。
- ⑩ 4つの出前講座を実施し、クラブのレベルアップに貢献した。
- ⑪ クラブ、カウンスルが主催した小・中・高校生対象のスピーチコンテストの助成を行った。

第30期日本リージョン年次大会は2012年6月24日、25日、26日の3日間、大会テーマ「手をつなごう」のもと、名古屋東急ホテルに於いて開催した。

最後に第30期役員会は、葛谷美紀子会長テーマ『力を信じて』に添って、日本リージョンが更に躍進できるように、与えられた役割すべての分野に誠実さを持って取り組んできたことを報告する。

第30期日本リージョン書記 若林 裕子

## 30周年記念講演



### 「女性のパワー」 建築家 安藤 忠雄氏

プログラムリーダー 石本 美知子 (大阪)

第30回日本リージョン年次大会記念講演はリージョン大会の最終日、6月26日10時20分から11時50分まで名古屋東急ホテルベルサイユの間で世界に名だたる建築家の安藤忠雄氏をお迎えして行われました。

安藤先生ってどんな方なのかとすごい緊張の中でお迎えしましたが、予想を裏切りたった一人でタクシーから降り立たれた先生はそれはそれは気さくな方で出迎えの私たちは拍子抜けしたくらいでした。



テーマ「女性のパワー」についてのご講演もユーモアを交えながら非常にわかり易く会場は終始爆笑の渦でした。

聴衆は、お話の面白さに笑っているうちに自然に先生のお考え、目指していることが理解出来るという不思議な話術にも驚きました。

後半はスライドを交えながら先生の作品等にも触れることが出来、会員達はとても有意義な時間を持つことが出来ました。



終わりに葛谷リージョン会長より前夜の晩餐会でITCメンバーにより集められた56万円あまりの寄付金を先生が実行委員長をされている東北大震災による孤児の育英資金「桃・柿育英資金」に手渡されました。



2011年3月11日、東北地方を襲った、大地震、大津波、そして原発事故で両親や兄弟姉妹たち、祖父母を突然失った、多くの孤児や遺児たちは、今も被災地の避難所などで、心細い思いに耐え、必死で生きています。彼らを支援し、励ます資金を集めるべく、再び「桃・柿育英会」を立ち上げられたものです。(もも・かき育英会趣意書より抜粋)

## 教育セッション 報告

### 教育セッション A

～文化を守る～「今に伝える尾張徳川家の文化」

徳川 義崇氏

プログラムリーダー 塩澤 孝子（阪神）

教育セッションA  
文化を守る今に伝える尾張徳川家の文化

名古屋ならではの教育セッション、徳川義崇氏の講演は～文化を守る～「今に伝える尾張徳川家の文化」と題して、180名の出席者を得て行われました。最初に尾張徳川家第22代当主として今までに経験された「金の免許書を所持しているのですか？」など珍質問を自己紹介に絡めて披露され、お殿様という堅苦しいイメージとは裏腹に、会場はリラックスモードに包まれながら、パワーポイントを使った1時間の講演は、明快にそして軽妙なテンポで進められました。

前半は、15歳まで共に暮らした曾祖父第19代徳川義親氏の話を中心に、大政奉還後の大名家の暮らしぶりや、家臣達の様子などについてのお話があり、旧藩士が北海道の八雲へ移住するのを全面的にバックアップしたり、土産物の木彫りのクマを提案したり、マレーでの戦利品を現地文化財として保存したことなど具体的なエピソードは歴史を身近に感じさせるものでした。そして、様々な困難を余儀なくされた旧大名家の人達が財産を手放す中で、先祖伝来のものを散逸させず記録と一緒にとどめ大名文化を守り後世に伝えたいという義親氏の考えから徳川美術館が設立された経緯のお話がありました。

後半は映像を見ながら美術館の収蔵品の具体的な説明がなされ、家康の遺品、国宝の純金製「初音の調度」、千利休の「泪の茶杓」など、豪華さが際立つ物から、由緒伝来が記録として残っているからこそ意味を持つ宝物まで次々と紹介されました。すでに、前日の大会観光プランなどで美術館訪問をしていた出席者も多く、聴く側も理解を深めやすい内容となりました。

大名という身分も武士という職業も存在しない現代において、大名文化を守り伝えるということの意味は何なのか。江戸時代が平和であったからこそ大名文化が栄えた。「文化を守ることは平和を守ること」と力強く締めくくられた徳川氏から、文化を伝える担い手としての熱意が強く伝わる講演でした。



### 教育セッション B

「からくり人形の世界」

木偶師・二代目 萬屋 仁兵衛氏

プログラムリーダー 後藤 絹代（錦）



会場はからくり人形・弁慶（2m）と三番叟・翁のお出迎えとなりました。名古屋を中心に東海地方に伝わる有形民族文化財山車からくりの登場です。「からくり人形の世界」では木偶師・二代目萬屋仁兵衛氏のからくり人形を紹介すると共に、援助参加の山車祭の楫方、祭事の管理・業務のプロフェッショナルである二番・永田組四代目組頭矢沢新吾氏のコラボレーション講演で進りました。最初に2011年7月に名都美術館で展示されたからくり人形、及び子供達とのからくり人形あやつり操作、お囃子の体験様子を映像にて紹介。（これは50・100年後の子供達に山車からくり人形を伝えたいという二代目萬屋仁兵衛氏の提案で行われた。）

矢沢氏は祭事の《事》を進めるリーダーとして地元の人達と協力し合い諸事遂行に尽力していること、又、祭事は子供達からお年寄りまでの協力がなくては成しえない。地域の大切なコミュニケーションの

場の一つである。と語られた。

萬屋仁兵衛氏はからくり人形との出会いから木偶師への道のりを、そして祭事の《物》であるからくり人形の制作過程、細工などについて説明の後、からくり人形と共に関わっていく人達とのつながりが木偶師の支えとなっていると語られた。両氏のお話から、祭事は《事》《物》そしてそれらを保存し、継承する人々のコミュニケーションで成立することが解る。

からくり奉納「三番叟・神輿がわり」の実演は、五穀豊穡を願って翁が舞い、収穫に感謝する神輿に早がわり、見事でした。人形が天と地のコミュニケーションを繋ぐ姿ではないでしょうか。

最後からくりの舞台裏が公開され、あやつり糸の仕組み、操作の複雑さに驚嘆し、思わず頭上の翁を見上げた次第です。祭礼という特別な神事の時しか見られないからくり人形、奉納舞を間近で見られた貴重な機会でした。今、私達は二代目萬屋仁兵衛の技術と心がより多くの人形に息吹を与え、からくり人形の世界を継承していただけることを、永田組四代目矢沢新吾氏には素晴らしいリーダーシップを大いに発揮していただくことを、そして祭事、山車からくり人形を軸にさらにコミュニケーションの輪・和が広がること、を願って止みません。



## 教育セッション

### 「琴線に触れる評価を目指して」

山中 千佳子氏

プログラムリーダー 平田 真弓 (阿波)

教育セッション  
「琴線に触れる評価を目指して」

教育セッションが始まる1時間程前、山中先生との打ち合わせに臨みました。その後会場の下見、機器のセッティングと同行させて頂きました。私が最初に感じたのは、教育セッションに参加される方への気配りです。まず会場のテーブル配置で、参加者全員が何の支障もなくスクリーンが見えるようにと、素早い決断力で配置転換されました。

いよいよ教育セッションの開始です。ITCでは様々な場面で「評価」が行われます。これは評価を通して評価をされた方がフィードバックし、その後の改善や成長、向上、モチベーションアップにつながるという役割があるため行われます。しかし実際の所はどうでしょう。じつは評価する側も大変な思いで評価と格闘するのです。スピーチを聞きながら、話の展開・構成、パフォーマンス、発声・視線等々、これらを短時間で評価しなければなりません。また、相手を傷つけたり、意気消沈させてしまったのではモチベーションは下がる一方です。

そこで評価を行うには聴くポイントを決め、スピーチの展開を図式しながら聴くと分かりやすい。また相手を否定するのではなく気持ちを肯定的に変化させ、気づきの誘発につなげることができるよう表現力も必要だとレクチャーを受けました。その後実際に会員によるスピーチ（「楽しませるスピーチ」関穂子さん（東京）、「説得するスピーチ」永井由紀子さん（紀州）、「鼓舞するスピーチ」石黒慶子さん（瀬戸内））が行われ、それぞれに段階（導入・本論・結論）を追って参加者による評価がなされました。この評価部分では会場のどなたに当たるか分からない・・・と言うドキドキから、皆さん真剣に評価に取り組んでおられました。

今まで評価項目が多くてどこに焦点を当てたらいいのか分からなかった会員も、このセッションに参加してスッキリ！評価する側も普段から観察眼を養い、表現力を磨かなければいけないことを教えて頂きました。



## 教育セッション D

### 「洋食器の歴史とその時代背景」 “Enjoy! My Cup, My Plate” 安藤 忠治氏

プログラムリーダー 原 太千子（東山）



教育セッションDは、名古屋の誇る世界のノリタケとのコラボレーションによって、マイカップやマイプレートを作りたい、という思いの会員110名の登録で開催されました。さすが ITC の会員、用意された10卓のテーブルにスムーズに着席され、ワークショップは予定どおりの時刻に開始できました。

ノリタケの森から講師の安藤忠治様と実習指導の中井宏美様にお越しいただき、転写の体験済みのカウンセル No.1 東山クラブ員数名がお手伝いに当たりました。

プログラム委員会から事前にお知らせがあったこともあり、デザイン画は勿論、型抜きツールをご用意されてきた会員も居られて、「とても楽しい」、「出来上がりが待ち遠しい」と意欲的に取り組んでいられました。ノリタケの安藤様と中井様はテーブルの間をまわって、デザインのアドバイスや質問に答えていられました。公式訪問者クリスティン エンドウも会場にお見えになり、転写の仕組みや、材料についての質問を受けました。100名もの会員の熱のこもったありさまに、感動されていたようです。

ワークショップの予定時間40分があっという間に過ぎて、安藤忠治様の講演、「洋食器の歴史とその時代背景」と題したお話をスクリーンの映像とともに楽しみました。ただ、講演の設定時間が2分とあまりにも短く、「ワークショップよりも、むしろこちらを期待して参加したので、もっと聞きたかった。」との、声も聞かれました。

プログラム終了！あとは、ノリタケにて高温で処理されたカップやプレートを自宅で待つばかり。「カップが到着したら、是非我が家においでください。おいしいコーヒーをごちそうします。」プログラムリーダーにかけられた嬉しいお誘いの言葉でした。



## 教育セッション E

### ワークショップ “Eat That Frog”

杉谷 和代（イースト神戸）

プログラムリーダー 戸塚 幸（イースト神戸）



英語での教育セッションの参加者は少ないとの懸念はあったが、4テーブル約30名の参加者は、熱心且積極的にワークショップに参加、非常に活発な時間が経過した。

ワークショップリーダーは、連日押し寄せる処理すべき多くの事柄（Frog 達）を、如何に効率的に、手際良く、気持ちよくこなす（食べる）ことが出来るかを、プロジェクターでの画面を追いながら解りやすく説明した。また、要所要所で各テーブルに問題を投げかけ、グループの意見の纏め方にヒントを与えながら参加者との距離を狭めて理解を深めた。

各テーブルからの代表者は纏めた案を堂々と発表した。半数ほどに発表の機会が与えられ、ユニークな意見がだされた。発表者には素敵なプレゼントが渡され、和気あいあい、活発で笑いの絶えない時間を作り上げたワークショップリーダーは見事だった。

International Mentoring Committee Chair であり、SC (Skilled Communicator) でもあるワークショップリーダーは、会場の雰囲気作りにも優れ、リーダーシップにも長け、70分の時間がとても短く感じられた。



プログラムリーダー 川島 泰子 (クリスタル神戸)

モデレーター 土川 邦子 (西宮・クリスタル神戸)

教育セッション  
フォーラム「力を信じて」

「ITC で学んだことがどう役立ったか。いかに社会貢献しているか。」をパネリスト4名が各3分のスピーチを行った。

その後20分間の質疑応答を経て、約10人単位のテーブル毎に意見交換し、代表者が意見を取りまとめて発表した。

総じて「ITC のお陰で以前の自分ではなく大きく前進した」「積極的に社会に関する意欲が高まった」「思いやり、おもてなしの心の大切さを痛感した」等の意見内容であった。

参加者は最初から最後まで熱心に聞き入り、活発な質疑応答で大盛況のパネルフォーラムであった。

### スピーチ内容：

マーガレット・サザーランドさん (前 ITC 会長)

通訳・奥田小夜子 (錦)

トーストミストレスに入会したことがきっかけでコミュニケーション力、リーダーシップ技術を会得し国際企業で地位を確立。ITC の訓練により現在も慈善団体のボランティアや社会で広く活躍している。

棚橋千珠子 (東山)

「夫婦間生体腎移植」の体験から日本初の「生体腎移植ドナーの会」設立。書籍発刊や移植学会での講演等、日本中の多くのドナー仲間と繋がる活動には ITC との出会い、コミュニケーション技術の学びが大いに役立つ。

中井 明子 (倉吉)

保護司と人権擁護委員を長年務めている。あがり症であったが ITC 入会以来、積極的に発言するようになる。コミュニケーションを大切にする ITC のスピーチ訓練の賜物。会社経営の立場上、議事法の学びも役立った。ITC が組織として培ったものを地域社会の向上につながる活動に反映させることを模索中。

山口久美子 (葦崎)

パワートークショートコーストレーナー資格を取得。表現方法が磨かれリージョンスピーチコンテスト 2011 年で優勝。小中学校教員や保護者等多数の団体に「知って得するスピーチ術」と題してワークショップを行う。また地元新聞や広報誌、ネット動画で宣伝活動を広げた成果により、毎月のゲストが多数の活気ある例会となっている。



# 30周年記念式典



晩餐会は大村知事をお迎えして



笛方 藤田六郎兵衛氏の能管の音で、歴代会長の紹介が始まりました。

## — 歴代会長の紹介と歩み —

モデレーター 近藤 みほ子 (葵)

「歴代会長の紹介と歩み」は藤田六郎兵衛氏による能管の祝儀曲「鈴乃段」で幕開けとなり、能管のキーンと張り詰めた音色は30年の歴史の記憶を会員の心に蘇らせてくれたのではないのでしょうか。故人とご欠席の歴代会長に関してはモデレーターが沿革史を参照にその役割を務め、ご出席頂いた19名の歴代会長の皆様には、会場のスクリーンに映し出された写真とテーマと共に一人1分という限られた時間でしたが、任期中の特筆すべき事柄、思い出などを簡潔にお話しいただきました。その語り口は一見淡々としたものでしたが、そこには大役を果たした者だけが味わえる達成感と確固たる自信が内包されているのを感じた時、深い尊敬の念を抱かずにはいられませんでした。同時に先人の業績を大切に守りながらも、この機会を歴史的な転換点として、今後のあるべき姿を見つめ直し、更なる発展に繋げていかなければならないことも痛感しました。最後に歴代会長それぞれのお名前が刻まれたペン立てセットを記念品として、日本リージョン会員の感謝の気持ちをお贈りしました。



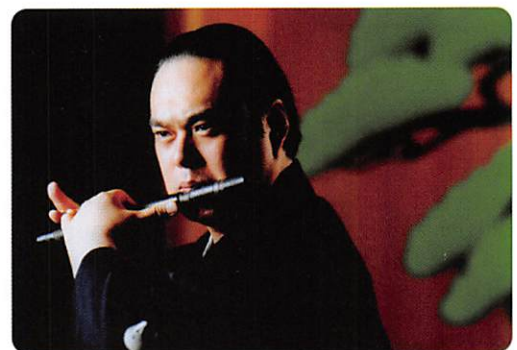
# エンターテイメント

プログラムリーダー 海老原 あかね（しらさぎ）

**能管**とシンセサイザーという異色の競演とお聞きし、竹でできた横笛と、電子技術を利用してあらゆる音を自由に合成する楽器が、どのような音色を作り出すのであろうかと想像していましたが、想像以上に能管が、現代音楽の中で自由に踊っているように聞こえました。これは「リズムを吹く」と言われているように、能管は旋律を美しく吹くだけでなく満身の力を込め演奏する事で、能ではたった一つの旋律楽器としての存在感と、ほかの囃子に協調する打楽器としての二面性があるからこそ、表現されていると感じました。



今回のコラボレーションコンサートで、私達が太古の昔から持っている魂を揺さぶられる響きを感じました。能舞台には客席と舞台を分ける幕がないそうです。能管の高音域である「ヒシギ」と言われている音域こそが、目に見えない幕であり、日常の空間から異次元の空間へ導かれ、私達を魅了するのだと思いました。皆様もきっと日常から離れ、魂で聞いている感じがされたのではないのでしょうか。



# スピーチコンテスト

第30期リージョンスピーチコンテスト委員長 西村 みつ子

ITCの会員であることを改めて誇りに思う素晴らしいコンテストでした！年々スピーカーのレベルが上がっているのは肌で感じていましたが、それにしても…でした。審査の苦しみ？は大変なものだったと思います。しかし、「お疲れになったでしょう？」と審査員の皆様を労うと、「楽しくて夢中で聞いていたから疲れませんでしたよ。」と。感動と笑いに包まれた特上の時間、まさしく「大会の華」でした。

スピーカーの卓越した技量と豊かな生き方とその努力に感動する一方、審査員の方々をはじめ、ビジネスや講演を犠牲にしてコンテストを支えて下さったお役担当の皆様にご心からの感謝がこみ上げてきました。

1年間のリージョンスピーチコンテスト委員会の活動を通じて、各カウンスルの皆様との絆が広がったことも大きな喜びでした。今は贅沢な達成感をあじわっています。皆様に感謝。ITCに乾杯！

## 英語の部

プログラムリーダー 南谷 みどり (葵)

	氏名(クラブ)	カテゴリー	論 題	題 目
1位	丸 田 晶 子 (柏)	Inspire	Shortcut	We Are So Different
2位	中 島 みお子 (梅田)	Inform	Collection	The Globe
3位	神 前 礼 子 (北摂)	Inspire	Achievement	The Message from -HAYABUSA-

### 優勝者スピーチ

Subject: Shortcut Title: We Are So Different



I love chatting with my friends, and my friends seem to love chatting even more. When we happen to meet on the street, we stop and start talking. "Hi, how are you? Fine? Good! How is your family? Did you enjoy the trip? Did you see the Korean drama last night?....." This continues until one of us say "I think I should go now. I've bought some ice-cream. They're starting to melt." I often see middle aged women or young women talking on the street like this, but I seldom see men doing this.

Men and women, we are the same human beings, but we are made different and seem to have different communication styles, and the differences often cause misunderstanding and troubles. I would like to talk about some interesting characteristics in communication styles that I found of men and women.

First, we women can keep chatting for hours on just one cup of coffee. We also can talk on the phone for an hour, by repeating "By the way, so and so....." Men might say it's a waste of time, but I think, for women, it's a way of socializing to feel closer to each other. Women just enjoy talking.

When men make a telephone call, generally they talk about what is really necessary. They seem to be more practical. Men don't make a long telephone call with their parents. As a result, their elderly parents forget their son's voice and how they talk, and are swindled. They believe the frauds saying "it's me, it's me" to be their sons whom they love.

Here is another example. Women like to talk about troubles. "I have a stiff shoulder. I have a terrible backache. My PC doesn't like me. It doesn't work properly." When women hear these talks about troubles, we respond saying "Oh, yes. Me, too." or "I have the same experience, too." By talking about the same troubles, we stand on the same side and get closer. But if I try to do this with men, or my husband, he would say, "What do you want me to do?" and my answer will be "Nothing. I'm just making a report." And the conversation stops. Yes, I think men are more practical. They talk to search for conclusions and solutions.

A sociolinguist, Debora Tannen says, "It is important for women to understand that men's communicating is all about status. For men, doing what they're asked to do means they have lost status in that relationship." That means men don't prefer being told what to do.

So at home, when I want my husband to help me with gardening, I used to say "Will you trim the bushes?" But recently I found a better way: I would look outside from the window and say, "Oh, the bushes grow so fast. They need to be trimmed. How about trimming them this weekend?"

And at work, when it is necessary, I ask men coworkers for advice and suggestions to search for solutions, but I avoid making complaints to them or telling them to do something for me.

It is said that good communication skills require a high level of self-awareness. Am I a good listener? Am I open minded? Do I try to see other person's point of view? Besides being aware of ourselves, noticing the different communication styles of men and women will enable us to make a shortcut to a better and smoother communication.

Ladies, let's learn how to talk more logically at ITC, and have respect for men's sense of status. Gentlemen, would you please be patient to women's endless chatting? And then, though we are so different, I'm sure that we will find a way for greater understanding.

## 日本語の部

プログラムリーダー 五十嵐 起久代(岡山)

	氏名(クラブ)	カテゴリー	論 題	題 目
1位	豊川 三千代(城北)	楽しませる	未来	想定内・想定外
2位	立石 峯子(京都)	鼓舞する	忘れ物	無言のメッセージ
3位	則末 美都子(三田)	鼓舞する	これからの私	相棒はノンちゃん

### 優勝者スピーチ

論題：未来 題目：想定内・想定外

かれーですね！かれーです。でもここが！いえ、かれーです。  
これは、レストランでカレーにしようか、はたまたシチューにしようかと迷っている時の  
会話ではありません。

私たち夫婦は、毎年夏に1泊泊りの人間ドックにはいります。  
その最終日に分かる範囲内での検査結果を先生から伺っている時の会話なのです。CT、エコー、レントゲンでの  
写真が、後ろからライトの当たるパネルに10枚ほど貼られております。1枚1枚写真の説明を受けるのですが、  
「この胃のひだはそうですね、加齢によるものです。この食道のちょっと狭くなっているところ、まあ、大丈夫で  
しょ。加齢によるものです。」「でも先生、私時々胸がキュッと痛くなるのですが心臓でしょうか」と申しますと  
「いやあ、この心電図や写真で見るとは何も見当たりません。加齢によるものですね」と加齢、加齢の連発で、  
何の改善策も教えていただけず、全て加齢でかたづけられたのです。ITCで評価を学んで欲しいとさえ思った程  
でした。

年の頃は40歳半ばの若〜い先生でした。今までの先生のように「年齢の割には内臓は綺麗ですよ！総コレステロール  
が高いのも善玉が多いので数値が高くなるのです。心配はいりません。薬もありませんよ」等と想定内のお答  
えを期待しておりました。

ところが、この加齢連発の先生は、きっと心の中では、この様に思っらっしゃるに違いないと感じたのです。  
それは、「毎年、毎年ドックいりして、健康ばかりきずかって、こんな老人が増えるから若者達の税金が使われ  
るのだ」と。

私のひがみでしょうか！「アー私もこの様に思われる時が来たのか」と思ったその時、胸の中に重石をドーンと  
落された気持ちがし、又それをまるめてポイッと捨てられる様な何とも言えない寂寥感に襲われたのです。

私の未来までも存在までも否定された気持ちがしたのです。この様な気持ちになったのは、生まれて初めてで、  
本当に想定外のことでした。

年齢を重ねるといふ事は色々な事が起こってまいります。

先日もパソコンのコードに足をひっかけ、平衡感覚を失いころび、これが誘引となり50肩になった事。この平衡  
感覚の欠如は、加齢に伴い脳からの指令が足の筋肉に伝わらなかったとの事。又大切な2つの約束を、何の疑い  
もなく、平気でオーバーブッキングしてしまった事。事前に注意を受け事なきを得たのですが・・・アー、私の  
脳はどうなっているのだろう！テレビで宣伝していましたボケの相談窓口で電話をしてみようと、真剣に考えた  
ほどでした。

この様な考えになるなんて、想定外の事でした。

さて、2020年には日本人の4人に1人が65歳以上になるといわれております。

生き方上手の著者、日野原先生は「長生きを恰好悪く思う若者達は、彼らの目には老人が魅力的に映っていない  
からだ。彼らの輝く様な若さに負けないくらい老人達が輝いていたら、おそらく答えは違ってくるでしょう。

あんな風に歳を重ねられたらステキだわ、と若い人のモデルになる様な生き方をしたいものです。こうなりたい  
と思う生き方のモデルを捜しモデルに学びなさい。モデルとは、暗闇を照らす一筋の光の様なもの。そしてその  
人に1歩でも近づき超える為には何をすれば良いかと頭を働かせなさい」と。

私はこの言葉を拝見し、思わず「そーだ！私の周りには、このITCの中には、この様に歳を重ねていきたいと思  
える希望の星の方々を沢山いらっしやるではないか。あの情熱溢れるパワー、カリスマ性、オーラ、動じない自  
身、そして暖かい人間性。そーだ！あの方々をモデルとして1歩でも近づき学んでいこう」と気づいたその時、  
私の未来に一筋の光が差し込んだ様な熱い思いがこみ上げてきました。

たった一人しかない自分を、たった一度しかない一生を、本当に生かさなかつたら、人間うまれてきた甲斐がな  
いじゃないか(山本有三)この言葉も思い出し、情熱がふつふつと沸いてまいりました。ポジティブな自分を取り  
戻した安堵感がありました。この気持、想定内です。

希望の星の方々をお手本に、になりたい自分という目標をもって、楽しく学び、ますます輝いて未来に向かい、背  
筋をピンと伸ばし真っ直ぐ歩いていると、誰かの心を捉え、私が誰かの生き方のモデルになれたらどれ程幸せ  
な事でしょうか。

好きな言葉に、20代は美しく、30代は強く、40代は賢く、50代は豊かに、60代は健康に、70代はしなやかに、80  
代はつややかに、90代は愛らしく、そしていぶし銀の様な美しい100歳へ(女の一生より)

なんと美しい言葉でしょう！

何か息子達の声が聞こえてくる様です。「お母さん、ええかげんにしといてや」と。この言葉、想定内？ 想定外？



## ライティングコンテスト



### Global Understanding; Satisfied by Curiosity Alone

杉谷 和代

What do you imagine from “world”?

You will probably imagine various worlds in your mind, for example earth, foreign countries, the world of arts and your own personal world. When I imagine the world, I think of other countries outside of Japan.

I would like to discuss three topics about the history of Japan in relation to the world.

The first topic is an airline that changed the world and its effects on Japan, the second is how IT devices make a basic knowledge of the world known, and the third is how these devices affect our own Japanese youth today.

Let me share my idea with you.

Back in the days when the airplane spectacularly debuted in Japan, it was 1947 one American Airline inaugurated the first regular service from the U.S. to Japan. It's Pan American World Airways. This was an epoch incident to Japan.

The flight service brought a lot of new and fantastic American culture to Japan. The window to the world was opened to Japan. It was a dream for Japanese then.

This service had only first class and luxurious atmosphere of a cabin and gorgeous meals from a first class restaurant were served in-flight.

The exclusive passengers were influenced by American culture a lot and they made a great contribution to Japan by introducing what they learned from other countries.

Within a couple of years, the economy class was introduced. Gradually not only the high class, but second class people began to travel.

People at that time were very hungry for obtaining new things with curiosity.

In 1970, the first jumbo jet operation stimulated people's travel interest.

Naturally enough, traveling abroad has become very popular among everyone-young and old of both sexes. They got interested in not only going to study but visiting different sightseeing spots with curiosity.

Around this time I joined Pan Am. I had a lot of opportunities to travel around the world as well. However, overseas traveling is not rare anymore and our interest in seeing things in person has changed-this brings me to my second point and it is something that has greatly changed Japan's curiosity about the world.

It's IT! For example PCs, i-pod, i-phones, skype... . These developments are too convenient and make your life vivid, exciting and pleasant. You are able to get various world news at real time

sitting at home.

However you are seeing with a passive attitude. You are receiving these news without any effort or doing active. You are passive and safe within your comfort zone.

The decline of curiosity about the world has been occurring, and according to recent trends, young people don't want to go abroad to explore, study and experience by themselves because they have everything they need in Japan.

They miss such a fortunate chance while they are young. You know what is going on in the world well but these resources are given from sometimes exaggerated and biased medias, and stereotyping can occur.

From my own personal experience, 15months ago I went to Shanghai and was quite shocked by seeing their living environment with my own eyes. I realized that it's true “seeing is believing”.

It was a good experience for me.

Now I am able to see them with a different point of view from before.

Getting back to the students, Japanese universities are concerned about the current trend that students don't take the opportunity to go abroad and so they started a project. They have their dormitories for Japanese and foreign students in different buildings but they will put them together and mix both students so that they will be able to exchange cultures with each other. This will be a good step for students but this is not enough. I still want them to have curiosity about many cultures and experience different opportunities while in their youth.

In conclusion, back in the day, Pan Am helped inspire Japanese people to discover the world. However, nowadays because of IT innovations, our Japanese youth have become too comfortable and have no desire to travel abroad. Their curiosities are slowly declining within recent generations.

It's important to realize that it is only these distinct curiosities that can create and broaden our youth's global sense and help the next generation have strong spirits and global relationships with different countries.

Let's encourage our youth to discover our beautiful world, like how we Japanese, ourselves, were inspired back in 1947.

As Goethe says “Mere curiosity adds wings to every step

END



松本 敬

## 今、気づいたこと

春

竹のこ沢山炊いたんよと  
自分の分よりたくさんに  
タッパーに詰めてくれたーあなた  
そんな日が永遠に続くと思ってた

夏

二人で並んで歩いていたら  
そっと私に影がいくように  
日傘を傾けてくれたーあなた  
そんな日が永遠に続くと思ってた

秋

ピアノコンサートを聴きに  
一緒に行こうと秋の日に  
二枚のチケットを買ってくれたーあなた  
そんな日が永遠に続くと思ってた

冬

今日は風が強いから  
マフラーをしていきなさいと  
自分のものを渡してくれたーあなた  
そんな日が永遠に続くと思ってた

でも今頃気づいたので  
何気ないことがどんなに幸せなことだったか  
もう一度あなたに甘えてみたい  
そんな日は永遠にこないことを・・・

Dear my mother, what I've finally noticed now.

**Spring,**

You, parboiling bamboo shoots a lot, gave more to me than to you.  
I thought our days like this would continue forever.

**Summer,**

You, walking along with me, opened a parasol to provide shade for me.  
I thought our days like this would continue forever.

**Autumn,**

You, on one autumn day, asked me to attend the piano concert together and bought a pair of tickets.  
I thought our days like this would continue forever.

**Winter,**

You, on a windy day, told me to take a scarf with me and handed me yours.  
I thought our days like this would continue forever.

Now I finally noticed that tiny and ordinary things were really blessings to me.  
I love to allow myself to be coddled to you again.  
However, I know days like these will never come again.

### P.20 英語スピーチの要訳

おしゃべり大好きな女性たち。道で偶然出会った友人との立ち話は延々と続きます。コーヒー1杯あれば何時間でもおしゃべりできます。それに比べて、男性はあまりそのようなことはしないようです。また、「電話はなるべく簡潔に」といった具合です。同じ人間でありながら、コミュニケーション・スタイルが異なるようなのです。女性がおしゃべりそのものを楽しみ、その結果互いに親しみを増すのに対し、男性は無目的なおしゃべりではなく会話に何か結論を求めているようです。

相違点の多い男性と女性。それぞれの異なるコミュニケーション・スタイルを知る事によって、互いの理解をより深めるための近道を見つけることができるのではないかと思います。

### P.22 ライティングコンテスト要訳 奥田小夜子（錦）

世界に関する日本の歴史を3つの観点からお話しします。先ず、最初は航空会社が世界を変え、日本も変化しました。2番目はテレビにより世界の知識を得ることができるようになりました。3番目はIT機器が今日の日本の若者に与える影響についてです。1947年に最初のパンアメリカンが定期運航を始め、世界の窓が日本に開かれて以来、多くの日本人が好奇心を持って海外を訪れるようになりました。その後、IT機器により世界に対する日本人の好奇心が大きく変化しました。IT機器の発達により、便利さとは裏腹に、情報は得るが海外に行きたくないと自分で体験することを嫌い、好奇心を失いつつある、受け身志向の若者が増えています。好奇心を持つ事で若者のグローバルなセンスを培い、国際的な関係を築いていかなければなりません。若者に私たちの美しい世界を自分たちの目で発見してもらうよう奨励しましょう。ゲーテは「好奇心だけがどの進歩にも翼をあたえる」と言っています。

## インスピレーション

光と水と生命の星、地球

宇宙飛行士たちは語る。宇宙で最も美しい光景は地球である！と。

こんなにも美しい故郷を持つ私たち地球市民。

仏教には団結の大切さがこう説かれている。

「異体同心なれば万事を成じ 同体異心なれば諸事叶う事なし」と、  
心を同じくすることがいかに肝要か、

**Hand in Hand 手をつなごう 心をつなごう**

世界に壁はいらない！

遠藤 玲子（出雲）

How beautiful the Earth is; a planet full of light, water and life, that the astronauts describe it as the epitome of beauty in the universe. We are all inhabitants of the same world.

Buddhism teaches, [If the spirit of many in body but one in mind prevails among the people, they will achieve all their goals, whereas if one in body but different in mind, they can achieve nothing remarkable]

**Hand in Hand. Heart in Heart.**

Ending a Divided World!

Reiko Endo (Izumo)

## クロージング ソート



# Eleanor Roosevelt

Many people will walk in and out of your life,  
but only true friends will leave footprints in your heart.

多くの人々があなたの人生を通り過ぎていくが  
本当の友だけがあなたの心に足跡を残す

To handle yourself, use your head  
To handle others, use your heart.

自分に対しては頭を使い  
他人に対しては心を使いなさい

If someone betrays you once, it is his fault;  
If he betrays you twice, it is your fault.

誰かがあなたを一度裏切ったら、それは彼の責任  
彼が再びあなたを裏切ったのなら、それはあなたの責任

He who loses money, loses much;  
He, who loses a friend, loses much more;  
He, who loses faith, loses all.

富を無くすと多くを失い  
友を無くすとより多くを失い  
信頼を無くすと全てを失う

Beautiful young people are accidents of nature,  
But beautiful old people are works of art.

美しい若者は偶然の産物だが  
美しき老人は芸術作品

Learn from the mistakes of others.  
You can't live long enough to make them all yourself.

他人の過ちから学びなさい  
全てを経験するほど人生は長くない

Friends, you and me....You brought another friend  
And then there were 3  
We started our group.... Our circle of friends....  
And like that circle....There is no beginning or end..

あなたと私は友達  
あなたの友達が加わればみんなで3人  
私たちのグループができた 私たちの友達の輪  
輪のように 始まりも終わりもない

Yesterday is history.  
Tomorrow is a mystery.  
Today is a gift.

昨日は過去  
明日は神秘  
今日こそが贈り物

That's why they call it the present.

だから「現在」(present)のことを「プレゼント」と呼ぶのです

Eleanor Roosevelt



Masako Fujiwara (Kashiwa, Tokatsu)

藤原 雅子 (柏・東葛)

# 大会ご苦労様!!

## アンケート結果



### デコレーション

会場の生け花・紅白の鶴・卓上の飾り付けどれもがセンスが良くすばらしい

すべてが見事で会場の雰囲気盛り上げて美しかった  
テーマにそった連鶴は制作に苦労されたと思う



### 受付 キット

81クラブをまとめることは大変な事  
委員会合同で協力されていた  
ご苦労様



### ページ

ページの先導が厳粛 緊張感が良かった  
ページがキビキビと動いて良かった  
会議中きちっと起立され整然とした進行  
を盛り上げた・・・ご苦労様!

### 食事

晩餐会は美味  
前菜からデザートまで  
良く吟味されていた  
すべてとてもおいしかった



### 観光受付

親切で  
スムーズだった



### エンターテイメント

能管が聞けて良かった  
笛と歌に感動  
二人のコラボも息がぴったり



### ホスピタリティー

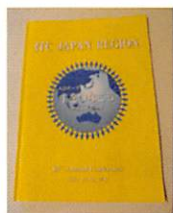
行き届いた係の人達の対応に  
満足、感謝です。場所も良かった  
いつ行っても美味しい飲み物と  
お菓子が整えられとても  
気持ち良く利用させて頂いた





### スピコン

スピーカーのレベルの高さに驚き、みなさん素晴らしいスピーチでした



### 会長行進



### 備典

700名の参加のもと、念には念を入れ事にあたった。午前・午後大会通して場面の展開が大変だったと思う。大きな会場で絶え間なく活動していた姿にご苦労さまです。

### スクリーン

公式訪問者のスピーチの和訳がスクリーンに映し出されたのはとても良い



### 議事進行

会長が無駄なく進行の手さばきが心地よかった  
会長の回答が素晴らしかった  
進行も声も分かりやすく、聞きやすく、スムーズでとても好感がもてた  
気負わず気取らず自然体、スムーズ・スマート  
良きお手本（他多数同意見）  
選挙時の質問への回答も分かりやすかった  
準備が良くなされていた



### 記念講演

ITCの大会で安藤氏の講演が聞いてすごい！  
期待以上の面白く楽しいものであった  
話が面白い考えさせられた素晴らしい講演だった  
期待道理のもので面白かった  
説得力あり心に響いた  
事前のサインをお願いするなどの配慮で良い記念になった

準備委員会の皆様ご苦労様でした。  
多くの方々にアンケートに答えて頂きました。  
紙面の都合上全部を掲載出来ない事をお詫びいたします。  
ご協力ありがとうございました。編集一同

## 東日本大震災 その後③ 明日を見つめて

カウンセル No.8 前会長 小菅 あけみ



大震災から1年半経ちました。心に痛みを覚えながら、日常生活にもどりつつある人たちと、大転換をしていまなお震災の影響と闘いながら毎日を過ごしている人たちがいます。

カウンセル No.8 は、被災地の盛岡クラブ以外にも、あの当時さまざまな被害にあった会員がいて、クラブ例会のプログラムで取り上げられました。又第2回カウンセル会合（スピーチコンテスト）が延期となり、会員だけでなく外部の方とも関連して、どのような処置をとったらよいか、さまざまな意見が交換され、その中でリーダーとしての決断を迫られた、大変厳しい時期でした。

東北にはたった一つしかない盛岡クラブですが、今、盛岡方面にクラブ増設の芽が出ようとしています。有志を中心に説明会を開いているとの報告を受けて、森会長に近況をお尋ねしました。

森恵美子会長はこのたびの震災で、自宅、妹夫婦、親族数名を亡くしました。その後に妹夫婦が亡くなった事を知ったお母様がショックで亡くなるという、つらい経験をされました。今期リージョン会報Ⅰに載った新聞には、震災翌日から55日間休まず避難所に通って支援物資を店のワゴン車で運んだことが紹介されています。

老後を考え5年前に明治時代からの自宅をマンションに立替し3階の半分のフロアを自宅にし、残り10件を賃貸住宅にしていた。けれども震災により破壊され、持ち主は陸前高

田に住所が無く、盛岡に住所を移した為、自宅であっても国からの保証は何も無いとのことでした。

「現在は陸前高田市に於いて 子育て支援の読み聞かせの会 ペパン、笹舟の支援、仮設住宅での高齢者世帯の支援、老人施設への支援、就労者支援をおこなっています。

被災地でのお花見の写真を送ります。瓦礫の中でのお花見でしたが、屋台の真似事などをして被災者の皆様には喜んで頂きました。

多くの ITC の仲間に使っていただき、昨日も老人施設から布きれを大変ありがたく使用させて頂いていると御礼がありました。とくにも 名古屋市 錦クラブの方々には感謝の念でいっぱいです。」

震災後、入会した佐藤智子さんは、大槌町の自宅、店舗（衣料品店）を流失。家族は無事だったので、現在は仮設住宅に住まいするが、仮設店舗の再開も出来、前向きに進んでいるとのことでした。

どうぞ皆様、東北の地に新しいクラブが誕生するよう、お祈りください。私たちにできる支援をさせていただきたいと思います。



# リニューアルしました

日本リージョンのホームページをリニューアルしました。

URL は変更がありませんので、<http://www.itcjr.jp/> または <http://itcjr.jp/> をクリックしてください。

INFORMATION にサイトの更新情報を掲載し、目的のページに入りやすくしました。

ITC日本リージョン  
International Training in Communication

Google™カスタム検索 検索

・お問い合わせ ・リンク ・サイトマップ

HOME ITCとは ITCのトレーニング ITCの活動紹介 ITCのクラブ 入会案内

ITC、のぞいてみませんか？  
何かが見つかります

広がる友情 深まる知識  
あなたを変えるきっかけに

ITCはリーダーシップやコミュニケーションの  
教育・訓練をする非営利組織です

会員ログイン

POWERtalk  
POWERtalk International Website

Welcome to ITC

ITC(International Training in Communication)は、リーダーシップや個人のコミュニケーション能力向上のための訓練、開発を高いレベルにおいて提供する非営利の国際的な組織です。

英語を使用言語とするクラブと日本語を使用言語とするクラブがあり、会員はクラブに属して、月に1回2時間の例会に参加し、会の企画や運営、議事法、スピーチの表現技術等を実地に練習しています。

楽しい仲間との交流を通じ友情が生まれ、一緒に楽しく学んでいます。

INFORMATION

2012-6-14	【会員】 the NEW POWERtalking Magazine # 22を掲載→国際から
2012-6-4	【会員】 FtB101号/Coach for Success第4号を掲載→国際から
2012-5-29	【会員】 2012-13年度必要書類（国際/事務局/経理）を掲載→各種書式
2012-5-29	【会員】 リージョンメール第6号掲載→リージョンメール PREM委員会情報、新入会員紹介を掲載→委員会

会員ページ

会員ページ

- ・ 会則
- ・ 役員会
- ・ 事務局
- ・ リージョンメール
- ・ 国際から
- ・ 委員会
- ・ 各種書式
- ・ リージョン大会
- ・ 資料
- ・ CMT資料
- ・ アーカイブ

会員専用ページには、現在、左のような資料や情報が掲載されています。

今後、全カウンスルのニューズレターを掲載する予定ですが、役員会、委員会、会員の皆様の要望に合わせて変更をしていきますので、掲載して欲しい資料や情報がありましたらご連絡ください。

なお、カウンスルやクラブによるリージョンサイト利用につきましては、準備ができましたらご連絡させていただきます。

## 第31回 日本リージョン年次大会ご案内

大会テーマ 「宝探し」 “Tresure Hunt”

開催日 2013年6月3日(月) 4日(火) 5日(水)  
場 所 東京ベイ舞浜ホテル クラブリゾート  
(東京ディズニーリゾート・オフィシャルホテル)



# アロハニュース



ヒルトン ハワイアン ヴィレッジ ビーチ リゾート & スパ

2013年世界大会 2013年7月13日～17日 開催

\*\*\*\*\*

アロハニュースは2013年世界大会関連情報をお届けするためのものです。

同時にハワイについてもお知らせを準備しています。

ウェブで検索！

## 訃報

新木 昌子 様	(No.1 名古屋クラブ)	2011年12月16日
武田 公子 様	(No.6 京都クラブ)	2012年 4 月 2 日
佐藤 明子 様	(No.1 名古屋クラブ)	2012年 4 月11日
渡辺 時子 様	(No.8 柏クラブ)	2012年 4 月20日

心からご冥福をお祈りいたします。

## 第2号 訂正

P16 ③ ※サービスサポートビューローを設け、**ているが案外活用されていない**。少人数クラブを積極的にサポートできる体制をとっている。

※外部への PREM 活動を強化、**入会可能な人をターゲット**に外部発信に力を入れている。  
赤字部分削除

⑥ 8クラブが10人以下で解散の危機があるクラブもある。

↓

8クラブ中10人以下のクラブが2クラブあり危惧している。

P17 全体会

※ No.3 は私学連合会共催の高校生対象スピーチコンテストを開催予定で、メディアに取り上げてもらい、高校生の父兄をターゲットにしている。

↓

※ カウンシル No.3 主催、ITC 日本リージョン 後援 ・私学連合会 後援で「高校生スピーチコンテスト」を3月24日に開催する。メディアの取材もあり、幅広い広報が出来るものと期待している。

以上、編集のミスをお詫びいたします。

## 編集後記



- 今期 編集の一端を担う事になり、どんなお手伝い出来るのかとても不安でした。アイデアは乏しく、PCは堪能ではありませんが“成せばなる”の精神でメンバーに加えて頂きました。校正やレイアウトすることは嫌いではありません。ない知恵を一生懸命絞りながら孤軍奮闘。何事にも判断力 決断力が乏しく迅速な対応が出来ず、心の中でご免なさいと詫びつつ・・・ 本当によい経験させて頂きました。ご一緒させて頂きましたメンバーへ感謝です。有難うございました。  
高橋弘子
- 締めとなる第3号は、リージョン大会の話題満載。あの感動を紙面でもう一度。 古屋弓子
- 校正になかなか貢献できない中、もう一年。先輩委員に仕事のスピード感、決断力、言葉の責任の大きさを学びました。楽しかったの一言。 酒井敦代
- スピーチコンテストの感動をもう一度！英語・日本語共に優勝者スピーチを掲載いたしました。ノンバーバルコミュニケーションも大切な要因だと納得。たくさんの事を学んだ一年でした。皆様のご協力に感謝いたします。 岡島詠子

ITC日本リージョン会報 Vol.30/No.3  
編集・発行：第30期 ITC 日本リージョン  
印刷：上野タイプ印刷(株)



## ITC Pledge ITC 宣誓

We, as members of International Training in Communication, hereby pledge to improve our communication and leadership skills, in order to achieve greater understanding throughout the world.

我々インターナショナルトレーニング イン コミュニケーションのメンバーは、世界中の相互理解促進のために、コミュニケーション技術と指導力の向上に努めることをここに誓います。

2011—2012

## ITC 日本リージョン声明文 Mission Statement of Japan Region

ITC 日本リージョンの使命は、ITC の目的とするコミュニケーション技術と組織運営の技術を習得する機会を会員に提供してリーダーシップをそなえた社会人を養成し社会に貢献することにある。

The mission of ITC Japan Region is to present the members opportunities for quality training in communication and leadership skills which are the purposes of International Training in Communication and benefit the society by providing mature individuals.